



Cisco UCS Manager Integration Pack ユーザ ガイド、リリース 1.1

Microsoft System Center 2012 向け、Configuration Manager
2016 年 3 月

Cisco Systems, Inc.

www.cisco.com

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。
各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は
当社の Web サイトをご覧ください
(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco UCS Manager Integration Pack ユーザ ガイド、リリース 1.1
© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- このドキュメントについて、[iii ページ](#)
- 対象読者、[iii ページ](#)
- 表記法、[iv ページ](#)
- [Cisco UCS コミュニティ](#)、[v ページ](#)
- [Cisco UCS の関連ドキュメント](#)、[v ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック](#)、[v ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)、[v ページ](#)

このドキュメントについて

このドキュメントでは、Cisco UCS Manager Integration Pack の特徴と機能について説明しています。また、Cisco UCS Manager Integration Pack の通常のインストールおよび使用方法も説明しています。このドキュメントには、次の内容は含まれていません。

- Cisco UCS Manager Integration Pack を使用できるすべてのケースまたはすべての方法。
- System Center Configuration Manager、そのインストール、または特徴と機能に関する情報。System Center Configuration Manager の詳細については、technet.microsoft.com の Microsoft TechNet サイトを参照してください。

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンド、キーワード、およびユーザが入力するテキストは太字で記載されます。
イタリック体	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	いずれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符(!)またはポンド記号(#)がある場合には、コメント行であることを示します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。記述されている操作を実行すると時間を節約できます。



警告

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

This warning symbol means danger. You are in a situation that could cause bodily injury. Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents. Use the statement number provided at the end of each warning to locate its translation in the translated safety warnings that accompanied this device.

SAVE THESE INSTRUCTIONS

Cisco UCS コミュニティ

[Cisco UCS コミュニティ](#)は Cisco UCS 製品およびテクノロジーについての議論、情報共有、学習のためのプラットフォームです。パートナー エコシステムとの UCS 統合に関連するブログ、ディスカッション フォーラムおよび文書については、<https://communities.cisco.com/ucsintegrations> を参照してください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメント ロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの完全なリストについては、[Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap](#) で入手可能な『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの完全なリストについては、[Cisco UCS C-Series and Cisco C880 Series Documentation Roadmap](#) で入手可能な『*Cisco IMC Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

すべての E シリーズ マニュアルの完全なリストについては、[Documentation Guide for Cisco UCS E-Series Servers](#) で入手可能な『*Cisco IMC Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

その他のマニュアル リソース

すべての B および C シリーズのマニュアルを含む ISO ファイルは、次の URL で入手可能です。<http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163andflowid=25821> このページで、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは、ドキュメントのメジャー リリースの後に更新されます。

ドキュメントの更新通知を受け取るには、[Cisco UCS Docs on Twitter](#) をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。
<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。





はじめに iii

このドキュメントについて iii

対象読者 iii

表記法 iv

Cisco UCS コミュニティ v

Cisco UCS の関連ドキュメント v

マニュアルに関するフィードバック v

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート v

概要 1-1

Cisco UCS Manager Integration Pack について 1-1

ソフトウェア要件 1-2

サポートされているハードウェア プラットフォーム 1-2

UCS Manager のリリース 1-2

Configuration Manager コンソールの操作 2-1

Cisco UCS ドメインの追加 2-1

Cisco UCS ドメイン、UCS サーバ、および組織の検索 2-2

オペレーティングシステムの導入 2-3

KVM コンソールの起動 2-4

Cisco UCS ドメインでの GUI セッションの開始 2-4

UCS サーバの電源操作 2-5

UCS サーバコレクションの電源再投入 2-6

Cisco UCS ドメインの更新 2-6

UCS サーバの削除 2-7

Cisco UCS ドメインの削除 2-8

ログの構成 2-8

UCS ドメインの設定 2-9

ファームウェア管理 2-9

ファームウェアパッケージのダウンロード 2-9

ファームウェアのアップロード 2-10

ホスト ファームウェア パック 2-11

ホスト ファームウェア パックの変更	2-12
保留中のアクティビティ	2-12
データベースの修復	2-13
トラブルシューティング	3-1



概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Manager Integration Pack について\(1-1 ページ\)](#)
- [ソフトウェア要件\(1-2 ページ\)](#)
- [サポートされているハードウェア プラットフォーム\(1-2 ページ\)](#)
- [UCS Manager のリリース\(1-2 ページ\)](#)

Cisco UCS Manager Integration Pack について

Cisco UCS Manager Integration Pack は、プラグインとして System Center 2012 Configuration Manager にインストールでき、Cisco UCS ドメインのブレード サーバまたはラック サーバのオペレーティング システムおよびドライバの導入プロセスの簡素化に役立ちます。**Cisco UCS Manager Integration Pack** がインストールされていると、次の操作を実行できます。

- UCS ドメインの追加、編集、および削除
- UCS ドメインで検出されるエンティティ：
 - UCS Manager で定義された組織は、デバイス コレクションとしてインポートされます。
 - 関連付けられたサービス プロファイルは、各デバイス コレクションの下にデバイスとしてインポートされます。
- サービス プロファイルおよび関連付けられた物理サーバの概要
- Configuration Manager コンソールから、OS の導入に必要な、UCS ドメインの特定サーバ用ドライバのダウンロードおよびドライバパッケージの作成
- 関連付けられたサービス プロファイルまたは UCS デバイスに対する次の操作をサポート：
 - 電源状態の変更
 - ホスト ファームウェア パックの変更
 - KVM コンソールの起動
 - UCS Manager のユーザ インターフェイスの起動
- UCS サーバのファームウェア管理：
 - UCS Manager での B および C バンドルのアップロード
 - ブレード サーバおよびラックマウント サーバのファームウェア パッケージのアップグレード
 - 影響を受けるサーバ ホスト名および OS の表示
- ユーザの確認応答を待っているアクティビティとスケジュール済みのアクティビティに対する操作の表示および実行

ソフトウェア要件

- .NET Framework 4.5 以降
- Java バージョン 1.6 Update 45 以降
- 次のバージョンの System Center 2012 Configuration Manager プライマリ サイト または管理コンソールのインストール:
 - System Center 2012 Configuration Manager
 - System Center 2012 Configuration Manager SP1
 - System Center 2012 R2 Configuration Manager
 - System Center 2012 R2 SP1 Configuration Manager
 - System Center 2012 Configuration Manager SP2

サポートされているハードウェア プラットフォーム

サポートされている UCS Manager B シリーズおよび C シリーズのプラットフォームは、実行中の UCS Manager のバージョンによって異なります。UCS Manager コンポーネントでサポートされているハードウェアおよびソフトウェアの詳細については、『**Hardware and Software Interoperability for UCSM Managed Servers**』を参照してください。

UCS Manager のリリース

Cisco UCS Manager Integration Pack は、UCS Manager の次のリリースをサポートしています。

- Release 2.1
- Release 2.2



Configuration Manager コンソールの操作

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS ドメインの追加\(2-1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ドメイン、UCS サーバ、および組織の検索\(2-2 ページ\)](#)
- [オペレーティング システムの導入\(2-3 ページ\)](#)
- [KVM コンソールの起動\(2-4 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ドメインでの GUI セッションの開始\(2-4 ページ\)](#)
- [UCS サーバの電源操作\(2-5 ページ\)](#)
- [UCS サーバ コレクションの電源再投入\(2-6 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ドメインの更新\(2-6 ページ\)](#)
- [UCS サーバの削除\(2-7 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ドメインの削除\(2-8 ページ\)](#)
- [ログの構成\(2-8 ページ\)](#)
- [UCS ドメインの設定\(2-9 ページ\)](#)
- [ファームウェア管理\(2-9 ページ\)](#)
- [データベースの修復\(2-13 ページ\)](#)

Cisco UCS ドメインの追加

はじめる前に

サービス プロファイル名は、Cisco UCS ドメイン内だけでなく、全体で一意である必要があります。

[Add Cisco UCS Domain] ウィザードを使用して、新しい UCS ドメインを **Configuration Manager** コンソールにインポートできます。次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Start] > [All Programs] > [Microsoft System Center]> [Configuration Manager] > [Microsoft Configuration Manager コンソール] をクリックして、**Configuration Manager** を起動します。**Configuration Manager** コンソールの画面が表示されます。
- ステップ 2** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] を選択します。
現在インストールされているすべてのデバイスのリストが、**Microsoft Configuration Manager** コンソールの右側の [Contents] ペインの [Name] 列に表示されます。

- ステップ 3** [Devices] を右クリックし、[Cisco Unified Computing System] > [Add Cisco UCS Domain] の順に選択します。
[Add Cisco UCS Domain] が起動し、新しい Cisco UCS ドメインを Configuration Manager コンソールに追加できるようになります。
- ステップ 4** Cisco UCS Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ステップ 5** Cisco UCS ドメインとの通信に使用するクレデンシャルを入力します。
- ステップ 6** [Port & Connection Mode] の下で、[Secure] または [Non Secure] を指定します。
- ステップ 7** [Use Proxy Connection] チェック ボックスをオンにして、UCS ドメインの接続用プロキシの詳細を指定します。



(注) プロキシ サーバのみを経由して Configuration Manager プライマリ サイトから UCS ドメインへの接続が確立される場合は、プロキシの詳細が必要になります。

- ステップ 8** HTTP プロキシの IP アドレスを入力します。
- ステップ 9** プロキシ ポートを指定します。
- ステップ 10** [Proxy Username] や [Password] などの詳細を入力します (プロキシ サーバの認証が必要な場合のみ)。
- ステップ 11** [Add] をクリックして、Configuration Manager に UCS ドメインを追加します。



(注) [Use Proxy Connection] チェック ボックスをオンにした場合にのみ、HTTP プロキシ、プロキシ ユーザ名、パスワード、およびプロキシ ポートの詳細を入力します。

Cisco UCS ドメイン、UCS サーバ、および組織の検索

[Add Cisco UCS Domain] ダイアログボックスを使用して Cisco UCS ドメインを正常に追加すると、次の手順を実行することで、**Configuration Manager** コンソールに追加したドメイン、UCS サーバ、および組織を検索できます。

- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] > [All Cisco Unified Computing System] の順に選択します。新しく追加された UCS ドメインは、このフォルダ内に一覧表示されます。



(注) [Collection(s)] を右クリックし、[Update Membership in Configuration Manager] を選択することで、コレクションのメンバーシップを更新できます。更新を実行します。この操作を行った場合にのみ、メンバーとその数に対応するコレクションに反映されます。[All Cisco Unified Computing System] は、Integration Pack を使用して最初に UCS ドメインを追加したときに作成された新しいコレクションです。

- ステップ 2** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] > [All <UCS Domain Name> Servers] の順に選択します。すべてのサーバがこのフォルダ内に一覧表示されます。



(注) サーバに関連付けられたサービス プロファイルが、このコレクション内のデバイスとして一覧表示されます。サービス プロファイル名は、Cisco UCS ドメイン内だけでなく、全体で一意である必要があります。同じ名前のサービス プロファイルが UCS ドメイン内または全体に複数ある場合は、1 つのみ追加され、その他は破棄されます。

ステップ 3 UCS ドメインのすべての組織が、**Configuration Manager** コンソールにコレクションとして一覧表示されます。すべての組織を [Assets and Compliance] > [Device Collections] から検索できます。



(注) 各組織の形式は次のとおりです - <Organization Name> - <UCS Domain Name>/<Full path of the organization>。

オペレーティングシステムの導入

前提条件:

- サービス プロファイルは、Cisco UCS Manager で作成する必要があります。
- BIOS ポリシーおよびブート ポリシーは、サービス プロファイルで指定する必要があります。
- サービス プロファイルは、オペレーティング システムを導入するブレードに関連付ける必要があります。

オペレーティング システムは、**Cisco UCS Manager Integration Pack** を使用して UCS サーバに導入できます。次の手順を実行します。

- 統合パックを使用して、Cisco ドライバ パッケージをインポートします。
- オペレーティング システムの標準的な導入手順に従ってください。詳細については、『[Configuration Manager Documentation](#)』を参照してください。
- オペレーティング システムの導入がコレクションの単一サーバで必要か、または複数のサーバで必要かによって、サーバの電源を再投入するか、またはコレクションの電源を再投入します。



(注) Windows Server 2012 のインストール後、デバイス付近に(問題があることを示す)黄色い感嘆符が表示されている場合は、ドライバを手動で更新してください。

KVM コンソールの起動

Cisco UCS Manager Integration Pack では、UCS サーバの KVM コンソールを Configuration Manager コンソールから起動できます。以下の手順を実行して、KVM コンソールを起動してください。



(注) KVM コンソールには、Java バージョン 1.6 Update 45 以降が必要です。

- ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] カタログを選択します。
- ステップ 2 [All <UCS Name> Servers] コレクションを選択します。すべての UCS サーバが [Details] ペインに一覧表示されます。サーバが属する特定の組織コレクションを選択することもできます。
- ステップ 3 UCS サーバを選択して右クリックします。
- ステップ 4 [Cisco Unified Computing System] > [Cisco UCS Server Operation] の順に選択します。
- ステップ 5 [Launch KVM Console] を選択します。
- ステップ 6 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] の順に選択します。
- ステップ 7 UCS サーバを選択して右クリックします。
- ステップ 8 [Cisco UCS Server Configuration] > [Cisco UCS Server Operation] > [Launch KVM Console] の順に選択します。



(注) UCS ドメインを追加する際に入力したクレデンシャル情報が、UCS サーバで KVM を起動する権限を必要としています。読み取り専用権限を持つユーザは、コンソールを起動できません。



(注) UCS ドメインへの接続がプロキシサーバを使用して確立されている場合は、ブレード、ラックユニット、またはサービスプロファイルで KVM コンソールを起動できません。

Cisco UCS ドメインでの GUI セッションの開始

Cisco UCS ドメインで GUI セッションを開始するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] カタログを選択します。
- ステップ 2 [All Cisco Unified Computing System] コレクションを選択します。
- ステップ 3 Cisco UCS ドメインを選択して右クリックします。
- ステップ 4 [Cisco Unified Computing System] > [Launch UCS WebUI] の順に選択します。
- ステップ 5 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] カタログの順に選択します。
- ステップ 6 UCS ドメインの任意の組織を選択して右クリックします。

- ステップ 7** [Cisco Unified Computing System] > [Launch UCS WebUI] の順に選択します。
- ステップ 8** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] カタログの順に選択します。
- ステップ 9** [All <UCS Name> Servers] コレクションを選択して右クリックします。
- ステップ 10** [Cisco Unified Computing System] > [Launch UCS WebUI] の順に選択します。



(注) Cisco UCS WebUI には、Java バージョン 1.6 Update 45 以降が必要です。



(注) 保存されたクレデンシャル(UCS ドメインを追加する際に入力)は、UCS ドメインへの自動ログインに使用されます。クレデンシャルが変更されると、UCS ドメインを再検出します。読み取り専用権限を持つユーザは、UCS WebUI を起動できません。

UCS サーバの電源操作

UCS サーバの電源操作を行うには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
- ステップ 2** [All <UCS Name> Servers] を選択してダブルクリックします。すべての UCS サーバが [Details] ペインに表示されます。サーバが属する特定の組織コレクションを選択することもできます。
- ステップ 3** UCS サーバを選択して右クリックします。
- ステップ 4** [Cisco Unified Computing System] > [Cisco UCS Server Operation] の順に移動します。
- ステップ 5** [Power Operation] を選択します。Cisco UCS サーバの電源操作ダイアログボックスが表示され、サーバの現在の電源状態を確認できます。
- ステップ 6** [Power Down]、[Power Up]、または [Power Cycle] などの電源操作を選択し、操作を確定します。



(注) 電源オプションは、サーバの現在の電源状態によって異なります。サーバが UP 状態の場合は、[Power Cycle] および [Power Down] がドロップダウンメニューに表示されます。同時に、DOWN 状態の場合は、[Power Cycle] および [Power UP] が表示されます。



注意 サーバでハード リセットが実行されます。

UCS サーバコレクションの電源再投入

コレクションのすべての UCS サーバの電源を再投入するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 2 UCS サーバを構成するコレクションを選択して右クリックします。
 - ステップ 3 [Power Cycle Collection] を選択し、操作を確定します。
 - ステップ 4 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 5 Cisco UCS ドメインの任意の [Organization] を選択して右クリックします。
 - ステップ 6 [Cisco Unified Computing System] > [Power Cycle Collection] の順に移動します。



注意

コレクションのすべての UCS サーバでハード リセットが実行されます。

Cisco UCS ドメインの更新

Cisco UCS ドメインを更新すると、**Microsoft Configuration Manager** コンソールは、サーバ(サービス プロファイル)または組織と関連のある UCS ドメインの最新データで更新されます。Cisco UCS ドメインを更新するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 2 [All Cisco Unified Computing System] コレクションを選択します。
 - ステップ 3 UCS ドメインを選択して右クリックします。
 - ステップ 4 [Cisco Unified Computing System] > [Update UCS Domain] の順に移動します。
 - ステップ 5 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 6 UCS ドメインの任意の組織を選択して右クリックします。
 - ステップ 7 [Cisco Unified Computing System] > [Update UCS Domain] の順に移動します。
 - ステップ 8 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 9 [All <UCS Name> Servers] コレクションを選択して右クリックします。
 - ステップ 10 [Cisco Unified Computing System] > [Update UCS Domain] の順に移動します。
 - ステップ 11 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 12 UCS ドメインを選択して右クリックします。
 - ステップ 13 [Cisco UCS Server Configuration] > [Update UCS Domain] の順に移動します。



(注)

すでにインポートされたサービス プロファイルの名前を変更すると、更新されたデバイス名が Configuration Manager コンソールに表示されません。新しい名前は、[Properties] ページの [Cisco UCS Manager Information] タブで確認できます。

UCS サーバの削除

UCS サーバを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
- ステップ 2 [All <UCS Name> Servers] を選択します。すべての UCS サーバが [Details] ペインに表示されます。サーバが属する特定の組織コレクションを選択することもできます。
- ステップ 3 UCS サーバを選択して右クリックします。
- ステップ 4 [Cisco Unified Computing System] > [Cisco UCS Server Operation] の順に移動します。
- ステップ 5 [Delete] をクリックします。
- ステップ 6 プロンプトで [Yes] をクリックします。
- ステップ 7 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] の順に選択します。
- ステップ 8 UCS サーバを選択して右クリックします。
- ステップ 9 [Cisco UCS Server Configuration] > [Cisco UCS Server Operation] > [Delete] の順に選択します。
- ステップ 10 プロンプトで [Yes] をクリックします。



注意

この操作により、Configuration Manager のデータベースから UCS サーバが削除されます。ただし、サーバ(サービス プロファイル)は、Cisco UCS Manager で引き続き使用できます。



(注)

Configuration Manager で提供される削除操作ではなく、この削除操作によってリソースを削除することを推奨します。



(注)

削除されたサーバを再検出するには、[Update UCS Domain] 操作を実行します。

Cisco UCS ドメインの削除

[Delete UCS Domain] 機能を使用して、**Microsoft Configuration Manager** コンソールから、Cisco UCS Domain へのエントリーと、その UCS サーバ(サービス プロファイル)および組織コレクションを削除できます。

次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 2 [All Cisco Unified Computing System] コレクションを選択します。
 - ステップ 3 Cisco UCS ドメインを選択して右クリックします。
 - ステップ 4 [Cisco Unified Computing System] > [Delete UCS Domain] の順に選択します。
 - ステップ 5 プロンプトで [Yes] をクリックします。
 - ステップ 6 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] の順に選択します。
 - ステップ 7 任意の組織を選択して右クリックします。
 - ステップ 8 [Cisco Unified Computing System] > [Delete UCS Domain] の順に選択します。
 - ステップ 9 プロンプトで [Yes] をクリックします。
 - ステップ 10 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] の順に選択します。
 - ステップ 11 UCS ドメインを選択して右クリックします。
 - ステップ 12 [Cisco UCS Server Configuration] > [Delete UCS Domain] の順に選択します。
 - ステップ 13 プロンプトで [Yes] をクリックします。



(注) Configuration Manager で提供される削除操作ではなく、この削除操作によって UCS ドメインを削除することを推奨します。



(注) 削除された UCS ドメインを再度追加するには、[Add UCS Domain] 操作を実行します。

ログの構成

Cisco UCS Manager Integration Pack は、ユーザが実行するすべての操作と、ユーザと Cisco UCS ドメインとのインタラクションがログファイルに保存されるロギング機構で構成されています。[Log Configuration] ウィンドウでログ レベルを設定し、ログファイルの場所を読み込むことができます。

[Log Configuration] ウィンドウを開くには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] を選択します。
- ステップ 2** [Cisco Unified Computing System] > [Log Configuration] の順に選択します。
[Log Configuration] ダイアログボックスが表示され、ロガーの設定を変更できます。
-

UCS ドメインの設定

[UCS Domain Settings] 機能を使用すると、Cisco UCS ドメインの詳細を表示または指定でき、Configuration Manager でパスワードの更新、プロキシの追加または削除が可能になります。たとえば、Configuration Manager の外部のクレデンシアルを変更する場合、[UCS Domain Settings] 機能を使用して、Configuration Manager で同じ変更を更新できます。

次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] を選択します。
- ステップ 2** Cisco UCS ドメインを選択して右クリックします。
- ステップ 3** [Cisco UCS Server Configuration] > [Settings UCS Domain] の順に選択します。
-

ファームウェア管理

Cisco UCS Manager Integration Pack には、特定の Cisco UCS ドメインのファブリック インターコネクタにファームウェア バンドルをアップロードする機能を追加する、ファームウェア管理機能が含まれています。このリリースでは、ファームウェア バンドル B および C のみをサポートし、ファブリック インターコネクタのファームウェア アップデート (ファームウェア バンドル A) はサポートしていません。

ファブリック インターコネクタで使用可能なファームウェア バンドルのインベントリの表示、Cisco UCS ドメインのホスト ファームウェア パック (HFP) 全体の表示、HFP のパッケージバージョンの変更、サービス プロファイルの HFP 関連付けの変更が可能です。

ファームウェア パッケージのダウンロード

-
- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] > [Any <UCS Domain>] の順に選択します。
- ステップ 2** [Firmware Management] を右クリックし、[Download Firmware Packages] を選択します。
[Cisco UCS Download Firmware Package] ページが表示されます。
- ステップ 3** [Select bundle type] ドロップダウンリストから、ダウンロードするファームウェアのタイプを選択します。
- ステップ 4** [Download Details] をクリックし、Cisco.com のクレデンシアル、プロキシ サーバの詳細を対応するフィールドに入力し、[OK] をクリックします。



(注) 入力したクレデンシャルが有効である場合は、ダウンロード可能なファームウェアのバージョンがすべて UI に表示されます。有効でない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。「Failed to get the download details from cisco.com.」

- ステップ 5** ドロップダウンリストから、ファームウェア バンドルのバージョンを選択します。
[Bundle Details] 領域で、ファームウェアの詳細を確認できます。
- ステップ 6** [Path] フィールドで、ファイルを保存するフォルダを指定します。
- ステップ 7** [Next] をクリックします。
- ステップ 8** ファームウェア パッケージのダウンロードが開始されます。
- ステップ 9** ダウンロードが完了したら、[Close] をクリックしてこのページを閉じます。

ファームウェアのアップロード

[Devices] ビューからドメインを選択するか、または [All Cisco Unified Computing System] コレクションビューからドメインを選択することで、Cisco UCS ドメインのファームウェアをアップロードできます。Configuration Manager コンソールの任意の [Organization] コレクションを選択することで、ファームウェアをアップロードすることもできます。

- ステップ 1** [Upload Firmware Packages] に移動するには、次のいずれかを実行します。
- **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] > [Any <UCS Domain>] > [Cisco UCS Server Configuration] > [Firmware Management] > [Upload Firmware Package] の順に選択します。
 - **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] > [All Cisco Unified Computing Systems Collection] > [Any <UCS Domain>] > [Cisco Unified Computing System] > [Firmware Management] > [Upload Firmware Package] の順に選択します。
 - **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] > [Any <Org of UCS Domain> Collection] > [Cisco Unified Computing System] > [Firmware Management] > [Upload Firmware Package] の順に選択します。
- ステップ 2** [Upload Firmware] ダイアログボックスが表示され、UCS ドメインにあるすべてのファームウェアアップロード タスクを確認できます。
- ステップ 3** 新しいファームウェア バンドルをアップロードするには、[Upload Firmware Bundle] をクリックし、ファームウェア バンドルを指定します。
- ステップ 4** ローカル ファイル システムからファームウェア バンドルを参照して選択します。
- ステップ 5** [Upload] をクリックします。Cisco UCS ドメインに正常に接続すると、新しい行がグリッドに追加され、アップロード タスクの進行状況が表示されます。アップロード プロセス中のエラーはすべて、メッセージ ボックスに表示されます。
- ステップ 6** [Refresh] をクリックして、アップロード タスクのステータスを手動で更新します。また、[Delete] をクリックするか、[Delete] オプションを右クリックして選択すると、ファームウェア ダウンロード タスクを削除することもできます。
- ステップ 7** [Firmware Packages] タブを選択して、ファブリック インターコネクタに現在あるファームウェア パッケージを確認します。

- ステップ 8** ステップ 8 でファームウェア ダウンロード タスクを削除したのと同じ方法で、ファームウェア パッケージを削除します。

ホスト ファームウェア パック

[Devices] ビューからドメインを選択するか、または [All Cisco Unified Computing System] コレクション ビューからドメインを選択することで、UCS ドメインにあるホスト ファームウェア パック (HFP) を表示できます。Configuration Manager コンソールの任意の [Organization] コレクションを選択することで、ファームウェアをアップロードすることもできます。

- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] > [Any <UCS Domain>] > [Cisco UCS Server Configuration] > [Firmware Management] > [Host Firmware Packs] の順に選択します。

または

Microsoft Configuration Manager コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] > [All Cisco Unified Computing Systems Collection] > [Any <UCS Domain>] > [Cisco UCS Server Configuration] > [Firmware Management] > [Host Firmware Packs] の順に選択します。

または

Microsoft Configuration Manager コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Device Collections] > [Any <Org of UCS Domain> Collection] > [Cisco Unified Computing System] > [Firmware Management] > [Host Firmware Packs] の順に選択します。

- ステップ 2** HFP メニューを選択すると、その UCS ドメインの組織構造に基づいてツリー ビューの HFP を示すダイアログボックスが表示されます。任意の組織を選択し、その HFP をすべて表示します。
- ステップ 3** HFP の基本的な情報は、コンソールの右ペインで確認できます。[Modify Package Versions] をクリックして、HFP ファームウェア バージョンを変更します。

HFP 依存関係を表示する [Modify Package Versions] ウィンドウが表示されます。これらの依存関係には、この HFP を共有し、一部のサーバに関連付けられたすべてのサービス プロファイルが一覧表示されます。また、このビューでは、Configuration Manager のサービス プロファイルのホスト名、オペレーティング システムの名前とバージョン、および Configuration Manager のクライアントの状態も表示されます。



- (注)** Configuration Manager Client がサーバにインストールされていない場合は、[Operating System] および [Active] の列に [NA] と表示されます。

- ステップ 4** 必要なブレードのバージョンとラック パッケージのバージョンをそれぞれドロップダウンメニューから選択します。現在のバージョンはデフォルトで選択されています。[Update] ボタンは、バージョンに変更がある場合にのみ使用できます。

影響を受けるサーバのクライアントがアクティブ状態のときにバージョンを更新しようとする と、更新プロセスが停止し、問題を示すメッセージが表示されます。

- ステップ 5** さらにプロセスを続ける場合は、[Upgrade even with running Servers] チェック ボックスを選択し、[Update] をクリックします。これにより、実行中のサーバに関係なく、現在のバージョンが更新されます。

- ステップ 6** [Next] をクリックして、この変更による影響を受けるエンドポイントを確認します。ウィンドウで使用できるチェック ボックスを使用して、ビューをフィルタリングできます。

ステップ 1 [Update] をクリックして、HFP を変更します。

HFP 変更の要求が UCS ドメインに送信されます。サービス プロファイルのメンテナンス ポリシーにおけるリブート ポリシーが [Immediate] でない場合は、リブート アクションが [Pending Activities] ウィンドウに表示されます。詳細については、[保留中のアクティビティ](#)のセクションを参照してください。リブート ポリシーが [Immediate] の場合は、サービス プロファイルがただちにリポートされて、ファームウェアを更新します。

ホスト ファームウェア パックの変更

サービス プロファイルのホスト ファームウェア パックを変更できます。次の手順を実行します。

ステップ 1 **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] > [Any <Service Profile>] > [Cisco UCS Server Configuration] > [Cisco UCS Server Operation] > [Change Host Firmware Pack] の順に選択します。

ステップ 2 [Change HFPs] ダイアログが表示されます。サービス パックに関連付けられた既存の HFP が、既存のパッケージの隣に表示されます。

ステップ 3 [Select Package] 付近のドロップダウンメニューに一覧表示されている HFP を選択し、[Apply] をクリックすることで、選択したサービス パックの HFP を変更します。

HFP 変更の要求が UCS ドメインに送信されます。サービス プロファイルに設定されたメンテナンス ポリシーのリブート ポリシーが [Immediate] でない場合は、リブート アクションが [Pending Activities] ウィンドウに表示されます。詳細については、[保留中のアクティビティ](#)のセクションを参照してください。リブート ポリシーが [Immediate] の場合は、サービス プロファイルがただちにリポートされて、ファームウェアを更新します。



(注) HFP の命名は、次の形式に基づいています。<HFP-Name>< DN of the organization to which HFP belongs>

HFP を変更すると、変更が依頼されたことを確認するメッセージが送信されます。

保留中のアクティビティ

Configuration Manager コンソールで、[Devices] ビューまたは [Device Collections] > [All Cisco Unified Computing Systems Collection] ビュー、または [Any <Org of UCS Domain> Collection] から UCS ドメインを選択することで、UCS ドメインで保留中のアクティビティをすべて表示できます。

保留中のアクティビティを表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Devices] > [Any <UCS Domain>] > [Cisco UCS Server Configuration] > [Pending Activities] の順に選択します。
- または
- [Device Collections] > [All Cisco Unified Computing Systems Collection] > [Any <UCS Domain>] > [Cisco Unified Computing System] > [Pending Activities] の順に選択します。
- または
- [Device Collections] > [Any <Org of UCS Domain> Collection] > [Cisco Unified Computing System] > [Pending Activities] の順に選択します。
- ステップ 2** [Pending Activities] をクリックして、保留中のアクティビティがすべて表示されたウィンドウを表示します。確認応答が必要なアクションがすべて [User Acknowledged Activities] タブに表示されます。[Scheduled Activities] タブに、スケジュール済みのアクションがすべて表示されます。
- ステップ 3** サーバをリブートする場合は、[Reboot Now] チェック ボックスをオンにし、[Apply] をクリックします。



(注) [Reboot Now] アクションは、管理者権限を持つ UCS ドメイン ユーザ のみが実行できます。



(注) [User Acknowledged Activities] および [Scheduled Activities] タブの [Acknowledge All] オプションでは、1 回の操作で保留中のすべてのアクティビティに確認応答することができます。

データベースの修復

Configuration Manager の削除機能を使用して削除操作を行う場合、[Repair Database] 操作によって、データベースでハングしている行がクリーンアップされます。たとえば、Configuration Manager の [Delete] オプションを使用して、任意の Cisco UCS サーバまたは Cisco UCS サーバコレクションを削除した場合、UCS サーバに関連するデータはデータベースから削除されません。この操作では、そうしたデータを検索し、データベースを修正します。

[Repair Database] ウィンドウを開くには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** **Microsoft Configuration Manager** コンソールの左ペインで、[Assets and Compliance] > [Overview] > [Devices] の順に選択します。
- ステップ 2** [Cisco Unified Computing System] > [Repair Database] の順に右クリックして選択します。

■ データベースの修復



トラブルシューティング

Cisco UCS Manager Integration Pack では、トラブルシューティング情報を Configuration Manager ステータス メッセージだけでなく、別のログ ファイルにも書き込んでいます。

Configuration Manager ステータス メッセージのトラブルシューティング情報を表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Monitoring] > [System Status] > [Status Message Queries] の順に選択します。
- ステップ 2** [All Status Messages] > [Show Messages] の順に選択します。これにより、「Configuration Manager ステータス メッセージ ビューア」が起動します。
- ステップ 3** **Cisco.UCSM.ConfigMgr.Plugin** を使用して、コンポーネントに対するメッセージをフィルタリングします。

次の表に示されたメッセージ ID に対するメッセージをフィルタリングします。

メッセージ ID	Status(ステータス)
39997	Success
39998	警告
39999	Error
Others	その他

ログ ファイルのトラブルシューティング情報を表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** マシンのログ ファイルの場所に移動します。`%PROGRAMDATA%\Cisco\SCCM\UCSM`
- ステップ 2** 次のログ ファイルのデバッグ情報を表示します。
- `Cisco.UCSM.ConfigMgr.Service.log`
 - `Cisco.UCSM.ConfigMgr.ConsoleUI.log`

次の表に、ログの構成を示します。

デフォルトのログ ファイルの場所	<code>%PROGRAMDATA%\Cisco\SCCM\UCSM</code>
デフォルトのログ ファイルのサイズ(1~100)	3 MB
デフォルトのロギング モード	DEBUG (ERROR/INFO/DEBUG)



(注)

- KVM コンソールを起動できない場合は、一度 UCS Manager UI を使用してコンソールを開いてから、プラグインを使用して起動すると、KVM コンソールが起動します。
- Cisco UCS ドメインがドメインまたは LDAP 認証用に設定されている場合は、<domainname\username> の形式でユーザ名を入力する必要があります。これらのクレデンシャルは、Cisco UCS ドメインとのすべての通信に使用されます。
- UCS ドメインの追加または更新後、サーバ(サービス プロファイル)または組織を検索できない場合は、UCS Manager UI でサーバおよびサービス プロファイルの全体状況を確認します。さらに、エラーのログを確認します。
- どの時点でも操作を実行できず、ポップアップまたはログでサービスに関するエラーメッセージが表示される場合は、Internet Explorer またはデフォルトのブラウザのプロキシ設定を確認し、削除します。さらに、ファイアウォールの設定を確認します。